

大河内

OKAWAUCHI

遊び癒し大河内

地区の概要

大河内地区は、大藪、丸野・城、本郷、合戦原、矢立の5集落で構成されています。一ツ瀬川源流域に位置し、九州大学演習林や矢立高原キャンプ場があります。産業はハウレンソウ栽培が盛んで共同出荷場が整備されています。生活圏としては、隣接した熊本県球磨郡が含まれます。



地区の未来像

テーマパークのように
また行きたくなる大河内



作成の過程

地区住民なら誰でも参加できるワークショップ「大河内みらい会議」を2回行いました。その後、役員会や神楽保存会、やる気会などの皆さんと打ち合わせを行い、地区住民による内容の校正を経て完成しました。

プロジェクト

01 矢立高原フェスティバルに 体験型プログラムを追加する

概要

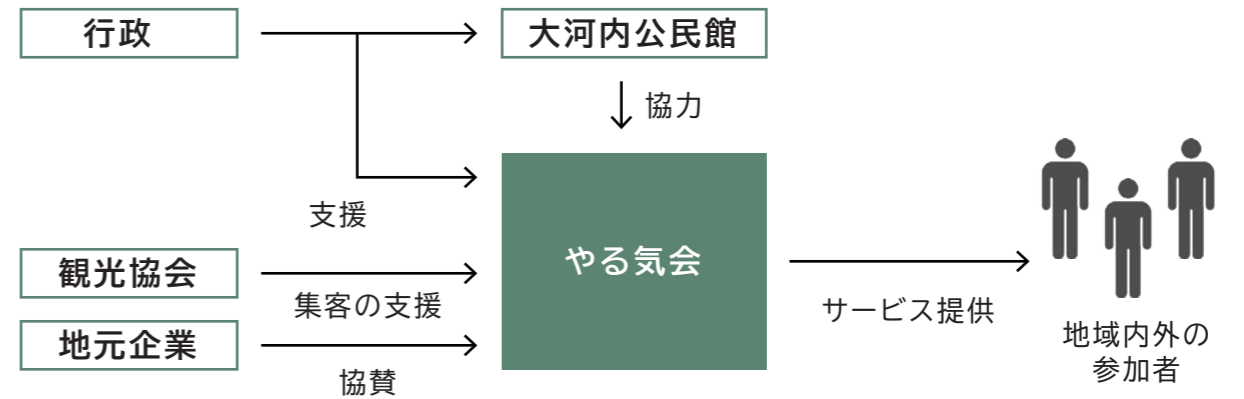
毎年夏に地元有志の「やる気会」が開催している「矢立高原フェスティバル」で、子供向けの体験型プログラムと青年向け婚活プログラム、全世代が楽しめる宝探しプログラムの3つを追加で提供する。

2022年に子ども向け昆虫採取プログラムを実施する。2023年には青年層向け合コンプログラムを追加実施する。また、全世代向け宝探しプログラムも追加実施する。2024年以降は参加者アンケートから改善をし続ける。

目的

- (1) 大河内の自然の良さを次世代に伝える。
- (2) 大河内の自然の中で出会う男女を増やし、関係人口を創出する。

実施体制



やる気会が主体となって全体を推進する。サービス提供時には公民館が声がけて地区住民の有志も参加する。

メモ

02 神楽の運営体制を 地域外の人を巻き込んで改善する

概要

宮崎県中山間盛り上げ隊や大学生等にボランティアを依頼し、神楽運営をお手伝いしてもらう（人員の確保）。宮崎市で神楽公演を行い独自で資金調達を行う（資金の確保）。

2022年に大河内神楽保存会で協議し、県中山間盛り上げ隊や大学に連携交渉を行う。
2023年には下記2点を行う。

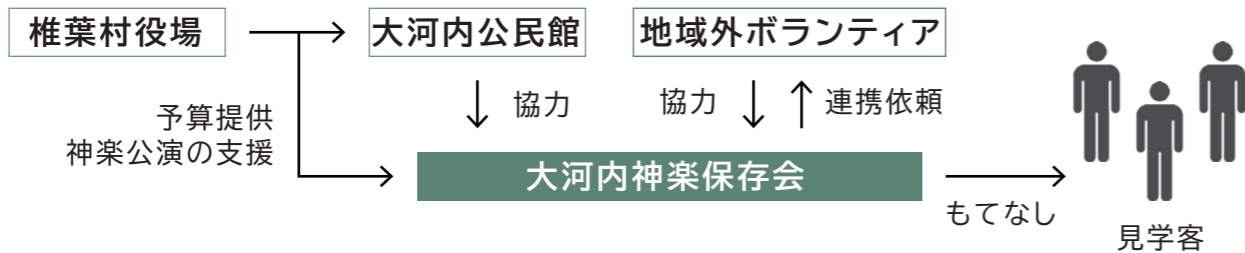
- ・宮崎市で神楽公演を行い、PR並びに参加費徴収による独自の資金調達を行う。
- ・前年連携交渉した大学等からボランティアを受入れてこれまで以上に地域負担少なく「もてなし」ができる運営体制で神楽を実施する。

2024年は改善を反映させて4年に1度の注連の願を大規模に行う。

目的

- (1) 村外の人に大河内神楽を知ってもらいたい。
- (2) 神楽の際に、人手不足から見学者に対する「もてなし」できない状態なので最低限できるようにしたい。

実施体制



神楽保存会が主体となって全体を推進。公民館は行政と保存会の3者連携を支援し、地区住民の有志がこれまで通り神楽をサポート。

メモ

地域住民の声

大河内神楽保存会の会長として、地域の神楽継承に取り組んでいます。

地元の人にとって、神楽は小さい頃から見てきて目に焼きついているもので、リズムも体に染み付いているもの。昔からずっと、神楽は村一番の祭りでした。

地域おこしにおいて、祭り事は欠かせません。人口が減っている今だからこそ、暮らしの中に楽しみになるものが必要です。また、地域の中で神楽を楽しむだけでなく、村外の人にも見てもらいたいとも考えています。それはもちろん、私たちの伝統芸能を様々な人に知ってほしいという思いもある一方で、多くの人に見てもらうことが舞手としての高いモチベーションになり、技術の向上につながるからです。

一人でも多くの人に大河内に来てもらって、私たちの神楽や大自然の癒しもあることを知られば、地域にもさらに活気が出てくるはず。そんな好循環を生み出せたらと思っています。



椎葉 賢二（しゅばけんじ）



右田 健二（みぎたけんじ）

大河内の先輩世代が立ち上げた「やる気会」の会長を引き継ぎ、「矢立高原フェスティバル」の開催など、地元を盛り上げるための活動を続けています。

一時は人数が減り、会の存続の危機もありましたが、それでも「やる気会」を続けてきたのは、祭りに来ていた人の「ずっと続けてほしい」という一言があったからです。今では一緒に活動したいという若手も出てきており、頼もしく思っています。

「何かやろう、やりたい」と思った時に動ける組織があることは、とても心強いことです。今後さらに矢立高原フェスティバルを盛り上げるべく、様々な客層を取り込む仕組みづくりに取り組み、新たなイベントの開催なども視野に入れて活動していきます。

「やる気会」の動きを通して地域を盛り上げていくことで、大河内に人を増やしたい。人が増えれば、自ずと活気は出る。その思いを胸に、来てくださる人も自分たちも楽しめるイベントづくりを目指しています。